

デトロイトでジョギング

平成25年7月

和田 宏

デトロイトの北部ウォーレンにあるGM社の中央研究所と、バッファローのT社の試験場に合わせて一カ月出張した時経験したことは、これまでとは異なるものでした。バイクの仕事では、販売店を助けることや商品開発のためのデータ集めが目的であったのに対して、今回は世界一の企業GM社の技術者との交流である、目的は立会試験であるからそれ以上でも以下でもないが、スタッフの層の厚さと、個人の仕事を処理する能力の高さを垣間見ることが出来た。

昭和60年の晩秋、筆者にとっては、経験を重ねて外国を理解する能力が身についた時点での出張である、また日本及び所属する会社の地位、知名度が格段に向上したことは心強かった、アメリカは失敗も経験したが、依然として先進巨大国家で国民は礼儀正しく誇り高い、(礼儀知らずで品が無い大国を思い浮かべないでください) 何度行っても見習いたいことが見つかる、彼らの行動、精神の真似は簡単に出来るものではないが、違いを感じ取れることの大切さは強調したい。

空港からのTaxiドライバーはインド人でアメリカまでやってきた身の上話を聞いているうちにモーターについて、フロントで支配払いは「XXのカードで」とかやり取りしていると隣の事務員が「貴方の車のキーよ」と声を掛けてきた、そうか、自分で運転するのか、パーキングへ行ってみると何とシルバーのシボレーセブリティー6000ccV8エンジンの新車である、GMの好意が感じられた、ここでエンスーな読者からは「セブにV8？」とチェックが入りそう、その通りこのフルサイズセブは発売できなかった試作車だと思います。使ってみるとこれぞアメリカン、重厚感と、有り余る出力に圧倒される、(家へ帰れば1300が通勤車両、落差が大きい、) 研究所へは数キロメートル、ランチの外出、モーターへ戻れば新聞でディナーのレストランを探して出掛ける毎日が始まった。

近くに何やらクラシカルなレストランを見つけて行ってみると、すんなり席に着けたので何も考えなかったが、帰りに待っている客の多さに驚かされた、大人の夕食時間が始まったのである。このレストランのウェーター、ウェイトレスが南部訛りで対応する、しかし彼ら同士は普通の発音である、そうです、日本にもある地方訛りレストランです、おいしいステーキが30ドル程度でしたから毎週出かけました、

ある日突然、60km西のアナーバーに駐在するバイク設計時代の先輩が訪ねてきて一日だけ行動を共にしました、雑談の中で我々の夕食は贅沢だと諭さ

れ、8ドル、ステーキディナーのレストランを紹介され体験しましたが、いわゆるグリーシー Spoon のレベルで味もイマイチでした、味と対価に相関があるのは何処の国も同じですね。

寒さを我慢しながら10km走るのが一日の始まりです、アメリカはジョギング人口が多いと知っていたが、今回はジョギング中に全くと言っていいほど見かけなかった、寒さを嫌がるような人々ではありませんから、場所が違ったのだと思います、広く綺麗な歩道をサイン「6:40、39°F」(39°Fは大変寒い、走っていると体温は時間と共に奪われていく)を見ながら走っていましたが、TPOをわきまえて行動するアメリカ人は然るべき場所で楽しんでいたのでしょうか、週末に公園の遊歩道に行けばオシャレなウェアを纏ったジョガー達にお目にかかれたと思います。

地形はウォーレン、バファロー共に平坦で広く、少々走っても眺めが変わらない、小さな発見(灰色ガンが歩いているとか)も無い単調な時間でした。

6時代から通勤車が沢山走っている、ビッグスリーの車に混じって日本車も時々見かける、古いボデーに磨き上げたV8エンジンを搭載したホットロッドもいるが、反対にコロンボ刑事も嫌がるほどの錆車も見かける、

立会試験はウォーレンから370km、エリー湖の東端の町バファローで行った、ここは寂しい街でモーターの周辺に住宅も疎らである、しかし筆者がジョギングをする通勤時間帯は、何処からともなく車が現れてビジーな道路になる、広い地域から人々が集まってきて成り立っている町である。

立会試験は合格で気分良く打ち上げの会食をした、悔しい思いをした前回のスタッフのためにも落とすわけには行かなかった、

この頃のカーエアコン技術のフロンティアは、軽自動車でも装着率が50%を超えるなか、平均時速5km/h以下の渋滞走行でも快適な室内空間を提供する、部品の小型化軽量化が進んでエンジンルームがきれいになる一方で、排気ガス浄化装置がスペースを要求する、設計者には、車室、エンジンルーム、車の直近を取り巻く空間、を然るべき温度に制御する技術が求められていた。小さなエンジンで低い回転数でも十分なエアコン出力を持続させることが出来たのは、革命ではなく小さな改良の積み重ねの賜物であった、

結果をテレックスしてナイヤガラ観光に出かけた、しかし11月末の当地は寒く人影も少ない、ミノルタタワー最上階のレストランは貸し切りで景色を遮る人影もなく雄大な滝の姿を楽しめた、川岸に目を転ずると引き上げられ裏返しのボート、葉を落とした木々が目立つ公園が秋の終りを物語っていた、

デトロイトの休日は野球でも観戦したかったのですがシーズンオフで適わず、出来たての日本電装ミシガン工場の見学に出かけました、主製品はエアコンです、94号線を西へ片道200kmのドライブである、オートクルーズも使っ

て中西部を感じながらドライブ、広く塵ひとつない工場では日本、北米、メキシコ等から集めた部品で熱交換器が組み立てられていた、日本流の品質管理を個々の作業者に求める会社と職能別組合のせめぎあいニュースなる時代の始まりである。

デトロイト美術館も見学しました、途中で犯罪多発地域があるのでGMの係長は眉を寄せていましたが、何事もなく美術館の人混みに紛れこむことができた、心配した入場料は「納税者は無料」でロビーに寄付金箱が用意されていたので周りの人々にならって1ドル投入した、

ヨーロッパの絵画室には日本で盗難事件があったばかりのカラーの風景画が裸で展示されていて、小柄なガードマンが一人、この絵についてどう思うかと言葉を掛けてみましたが、無視された、彼はほかの絵なら興味があったのでしょうか。

仕事の遂行とアメリカを知ることに興味があった50代のメモリーです。

以上